

漫画でわかる
木曾義仲と
上田市の武士

第二弾

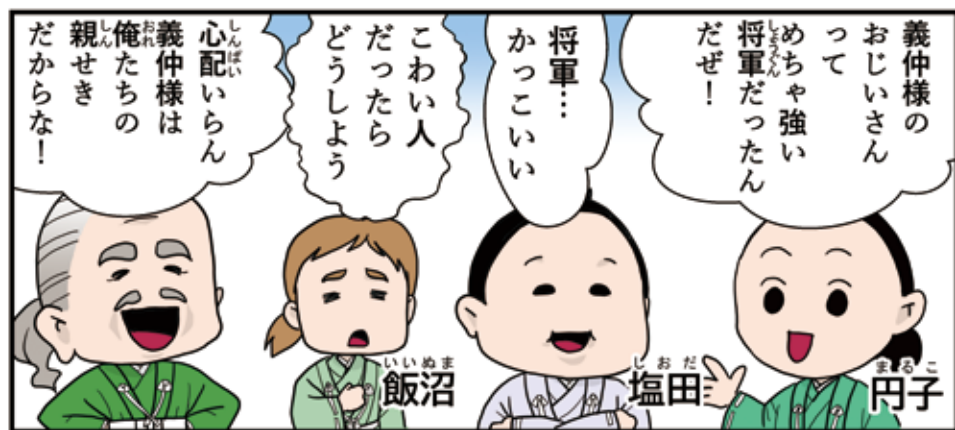
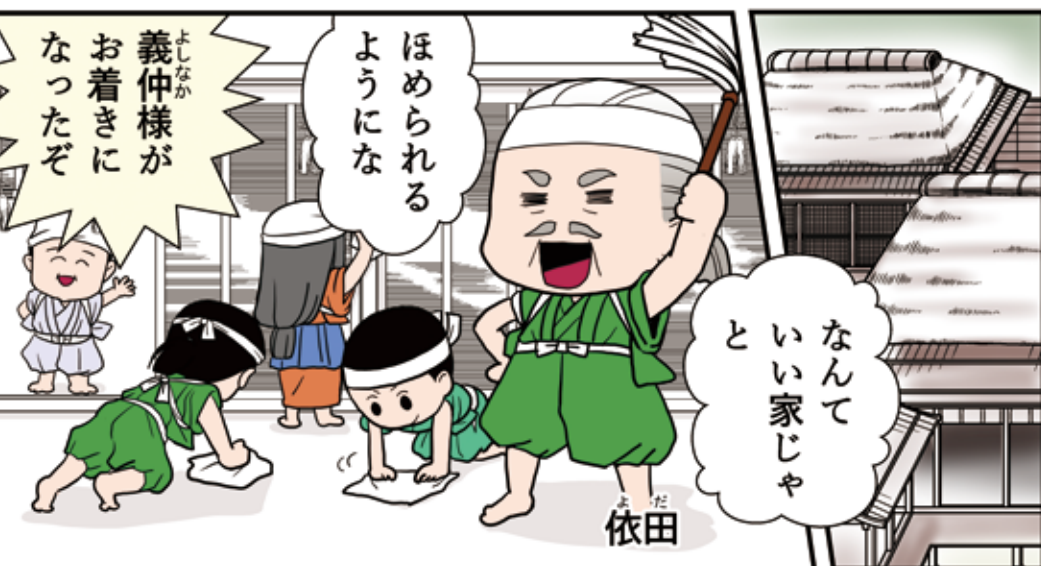


長野県
上田市丸子



の850年前は
しなのくに
信濃国
ちいさがたぐんよだのしょう
小縣郡依田荘

キレイに
キレイに
〜！





義仲様は
お寺や神社が
好きすぎて

巴御前
義仲の育ての親の娘



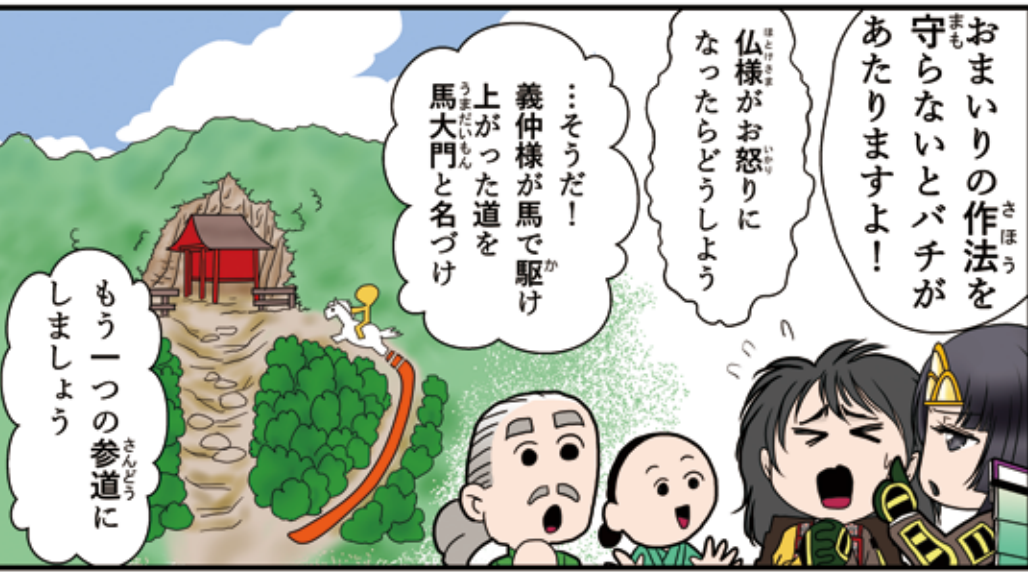
参道が
あったのか



すばらしい！
岩を活かした
美しい寺！

岩谷堂
龍洞山宝蔵寺

景色も
すばらしい



：そうだ！
義仲様が馬で駆け
上がった道を
馬大門と名づけ

仏様がお怒りに
なったらどうしよう

おまじりの作法を
守らないとバチが
あたりますよ！

もう一つの参道に
しましょう



私の失敗を
うち消す
名案：！！

なんと
温かい
心づかい
依田殿
円子殿



義仲様と
俺たちは源氏

むかしむかし
俺たちの
ご先祖様は

義仲様の
ご先祖様は
都で活躍を続けて
將軍になった

でも誰が次の將軍に
ふさわしいか
家族で殺し合うほどの
争いになってしまった

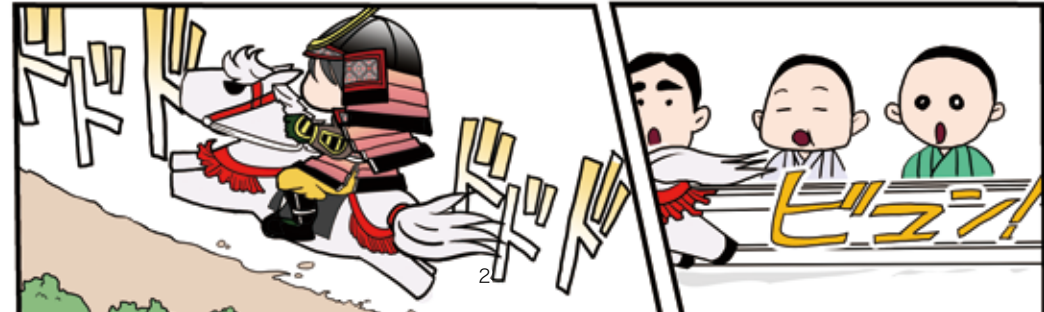
義仲様は父上を殺され
信濃国の木曾に
あずけられて育った

遠い親せきの
俺たちを頼って
木曾から東信地方に
やってきたんだ

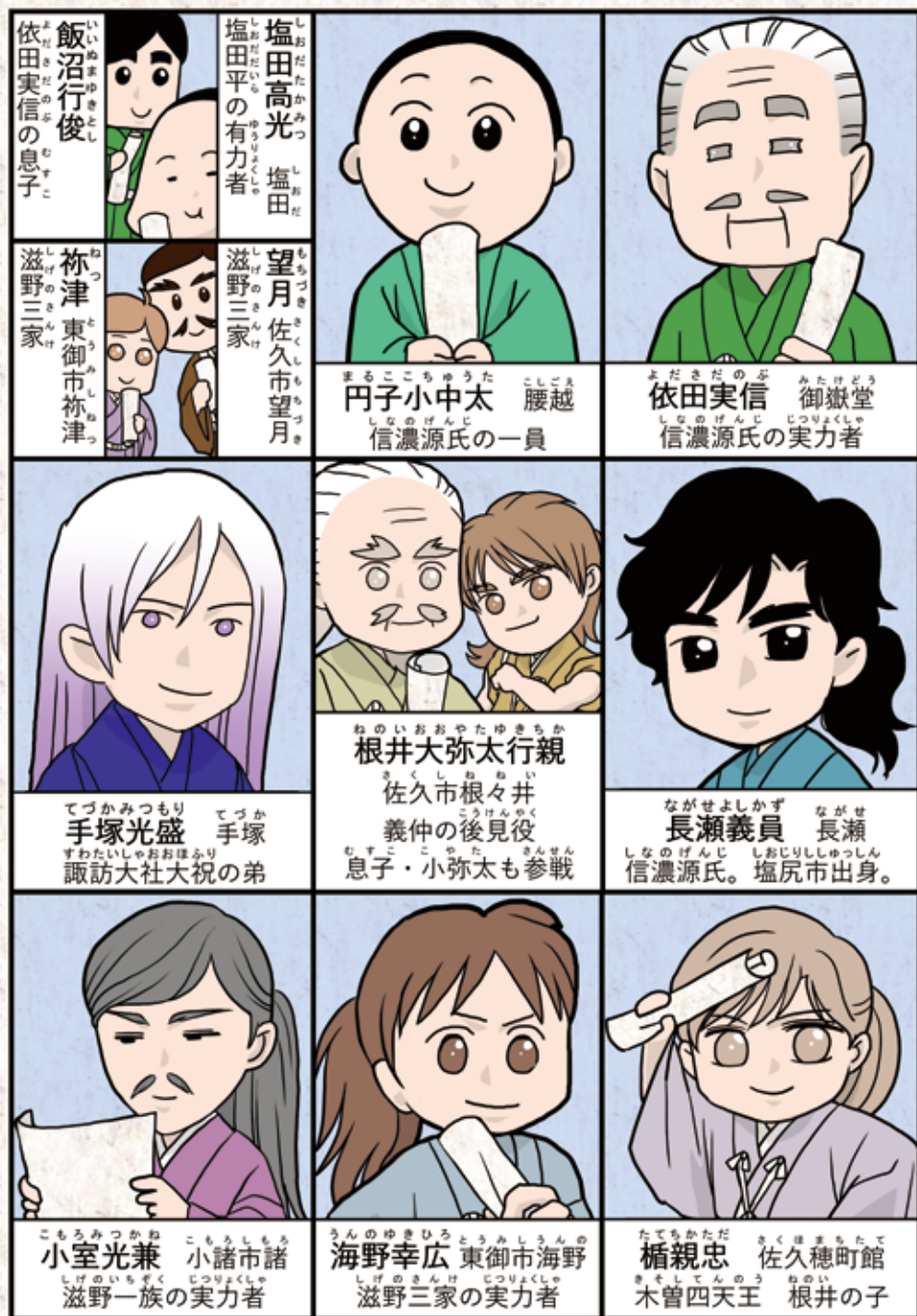
都を出て
信濃に引っ越し

親せきを
ふやしてきた

木曾 義仲



ビュン！



☆東信地方の武士は海野・望月・柵津の三兄弟からはじまり、その子孫が一族として武士団を作っていた。根井・柵も滋野一族。



父と祖父を討たれ
うけつぐ館も

家臣もなかった私を

將軍の血脈を信じむかえてくれた

上田、そして東信の武士たち…



私が源氏として
立つことで

信濃国を
ムダな戦のない
豊かな国にしてみせる

木曾義仲
まんがでわかる

木曾義仲と
上田市の武士たち

第二弾

武士は地名の擬人化!?

円子（まるこ）、依田、飯沼、塩田、長瀬、手塚、そして木曾…あれっ聞いたことがあるぞ？と思うかもしれませぬ。今から1000年ほど前、日本のあちこちにあらわれた武士は地名を名字としていました。自分の土地をとて大事にしていた証拠です。

平安時代のはじめ、自然そのままの土地を人々はきりひらきました。木を切り倒し、草を刈り取って整え、田畑にしました。森に入って木を切り出したり、枝をはらって、建物や生活用品を作りました。土地の開発は、近くに住む人が自ら進んで行うだけでなく、国の役所や寺、天皇や都の身分の高い貴族に命令されることもありました。その時、都の貴族が土地を管理するために遣わされました。依田氏につながる源氏が信濃へやってきたのはそのためです。信濃の女性と結ばれた源氏は、子供たちに土地の管理を任せ、子から孫へ仕事を引き継ぎ、新たな土地を開いていきました。土地を守るためには武器を手にもすることもありました。武士のはじまりです。

平安時代の中ごろを過ぎると自ら開いた土地を守るために都の貴族や大きな神社とつながる者もいました。源氏や平氏は警備や戦闘を仕事とする貴族で、義仲の先祖は將軍として東北に進軍しました。土地を守ってもらおうと、地域の有力者は將軍に名簿を提出し家来になりました。義仲が將軍になるのはまだ先ですが、早く家来になっていたほうがよいと考え、信濃武士が集まってきたのです。

850年前の上田と東信

上田には国分寺跡があります。日本が国の形を整えた最も古い時期に信濃国（長野県）の中心だったのです。そのため長野・松本・諏訪・佐久、群馬にも行き来しやすくなっていました。

佐久にあった望月牧は、都の貴族がほしがるような名馬を育てていました。牧場を管理していた人々は馬を乗りこなし、弓矢をあつかうことを得意としていました。望月の牧を管理していた滋野氏の息子たちが海野・望月・祢津を名のりました。その子孫が滋野党を名乗る武士団に変わっていきます。滋野党と依田氏ら信濃源氏は義仲をささえた重要な家臣団となりました。

～1181年6月

長野での戦

善光寺平
ぜんこうじへいら

領地を
りょうちを
よこせ！

笠原義直
かさはらよしなお

中野市に住む武士
平氏に従っている

栗田
くりだ

長野市に住む武士
善光寺の役人を
兼ねる

源義仲の
名において

所領侵攻を
むか
迎えうつ！

くそー
おぼえてろ！

平家の赤い旗を
かかげて
戦をおこすとは

都の戦が
信濃国
にまで

もしかして
あの令旨の
せい？

☆市原の合戦 治承四年（1180）九月、長野市で起きた戦。「吾妻鏡」に書かれている。

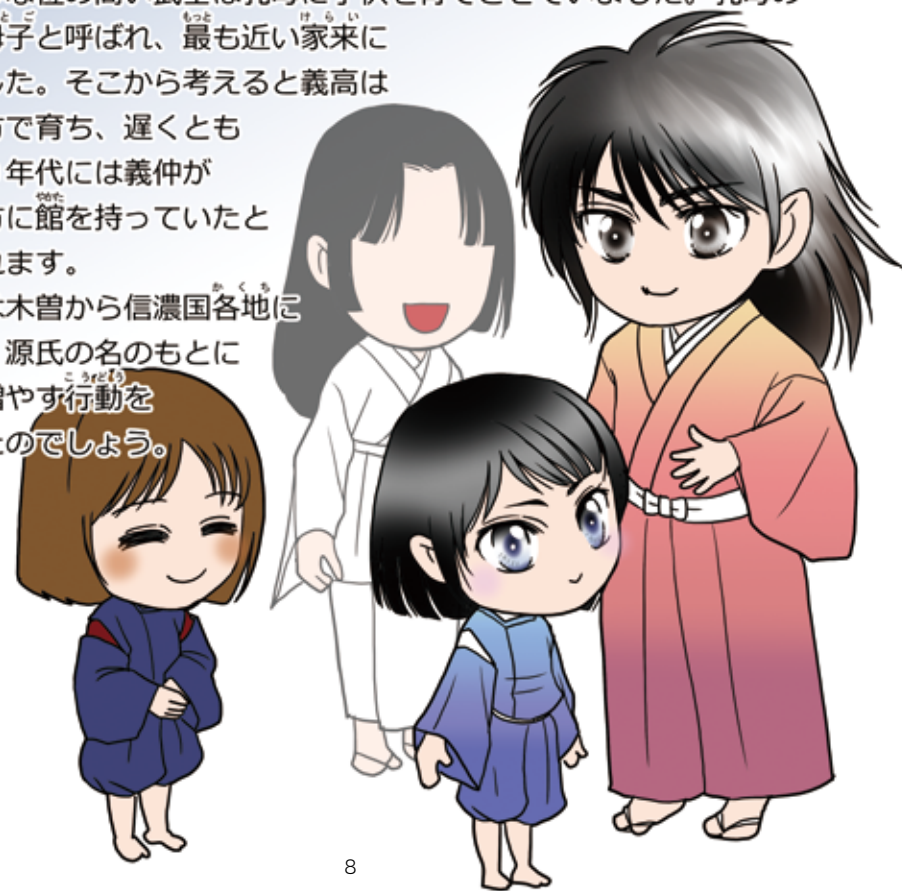
～1180年

挙兵前の義仲

1180年に挙兵するまで義仲がどのような暮らしをしていたのかは、どこにも書き残されていません。そのころの日本は平家によって支配され、平家に従った武士たちが各地で偉そうにふるまって、反感を買っていた…のですが、信濃国は、平家の支配を受けていない数少ない地域のひとつだったため、平和な日々が続いていました。義仲がもめ事が起きないように武士たちをまとめていたのかもしれませんが。

たった一つのヒントは、1166年ごろ義仲の子供・義高が生まれたことです。当時の記録に、母は誰か書き残されていませんが、義高の家来として一番近くに海野小太郎幸氏がいたことはわかります。源氏のような位の高い武士は乳母に子供を育てさせていました。乳母の子は乳母子と呼ばれ、最も近い家来になりました。そこから考えると義高は東信地方で育ち、遅くとも1170年代には義仲が東信地方に館を持っていたと考えられます。

義仲は木曾から信濃国各地に出かけ、源氏の名のもとに仲間を増やす行動をしていたのでしょう。



二か月前

義仲そなたは源氏
私の甥である縁で
この令旨を届ける



後白河法皇のお子
以仁王様は
平家による
身勝手な政治を憂い
源氏拳兵を
望んでおられる

①コマ 令旨↓皇族から出される文書 後白河法皇↓都で一番エライ人

信濃で
拳兵し
平家に
従う者を
倒せ！



源行家
義仲の叔父

各地の源氏に令旨を知らせている

孤児である私を
源氏と認めて
下さってうれしい



しかし拳兵は
別だ
ここでは
平家の支配を
受けていない
のだから

②コマ 信濃国が平家支配外にあったことは長野県史で指摘されている

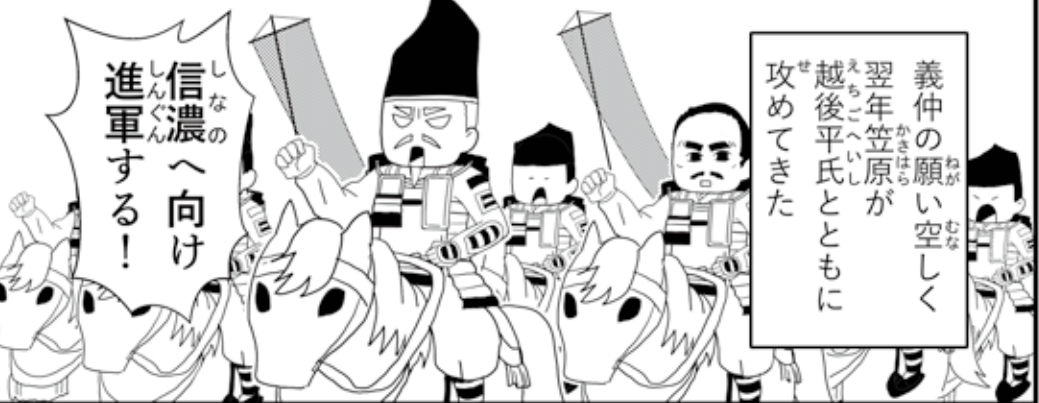
私が將軍の血を
引くものとして
皆の上に立ち
武士同士の争いを
防いできたのに



信濃国だけ
平和なままには
行かないのか

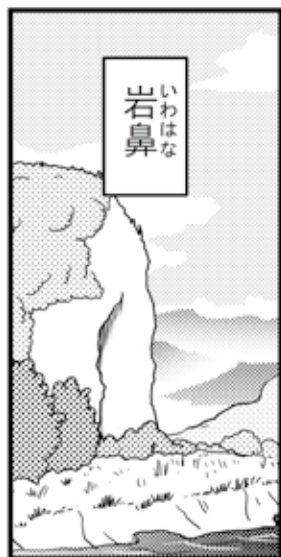
☆横田河原合戦 養和元年（1181）6月13・14日に長野市で起こった。平家物語「長門本」「延慶本」、源平盛衰記が詳しい。

義仲の願い空しく
翌年笠原が
越後平氏とともに
攻めてきた



信濃へ向け
進軍する！

岩鼻



見えたぞ！
善光寺平に
越後の軍勢



白鳥神社

越後の軍勢
六万が襲来



我が軍はどつ集めても6000騎



敵は10倍が...

千曲川を
北上する



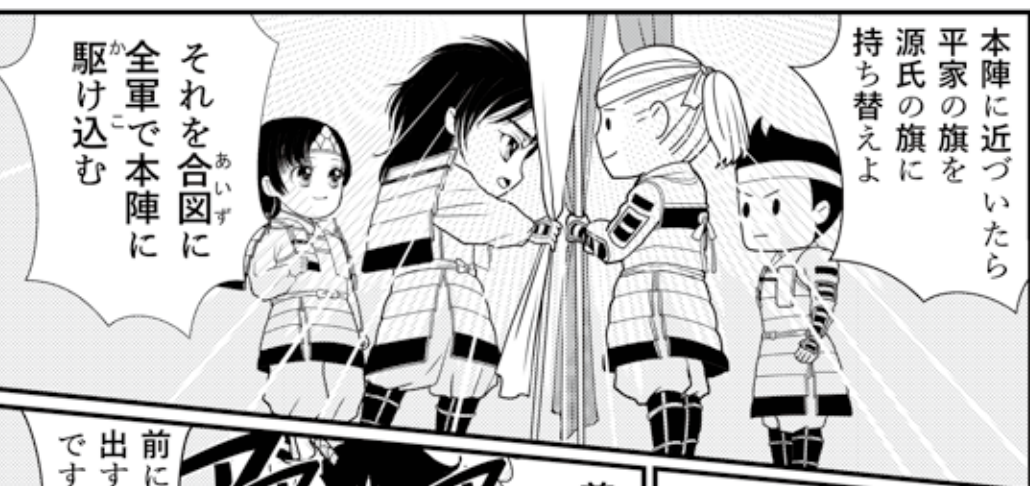
それでも
戦いに挑むしかない！



味方のふりをして敵の本陣に近づき
大将を討ち取ります！
しかし井上殿の身に危険が



戦って死ぬなら
少しでも勝利の可能性にかけたいんです



本陣に近づいたら平家の旗を源氏の旗に持ち替えよ
それを合図に全軍で本陣に駆け込む



義仲がいたぞ
義仲をねらえ
前に出すぎです！



横田河原
(長野市南部)

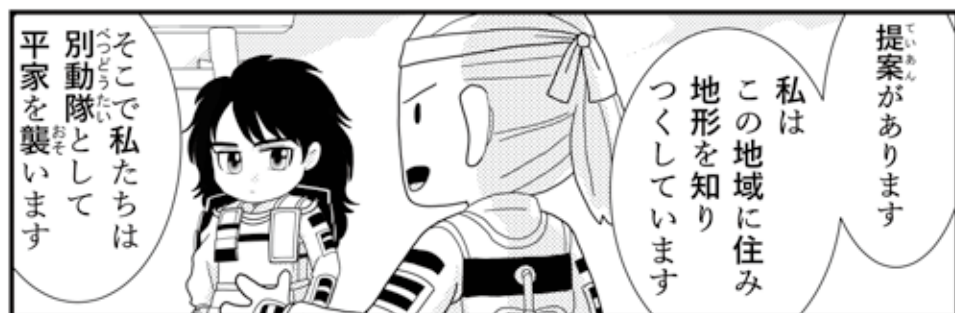


それは死を覚悟で敵の大將を討つこと
たった一つ勝利する方法はある

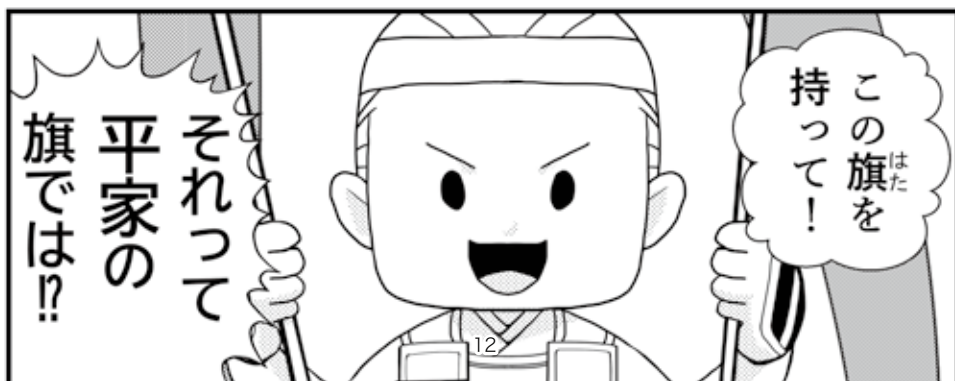


嬉しいです
我らの神社を大事にお参り下さって

井上
須坂市の武士



提案があります
私はこの地域に住み地形を知りつくしています



この旗を持って！
それって平家の旗では!!

私が敵を
ひきつければ

井上殿に
有利になる！

義仲様に
続け！

井上殿の
旗はどれだ

遠すぎる

俺に
まかせろ！

見えた！

源氏の
白旗だ！

行くぞ！

オウ！

作戦は成功し
義仲の軍勢は
10倍の敵を
おいはらった

信濃源氏勝利の
しらせは
全国に届いた

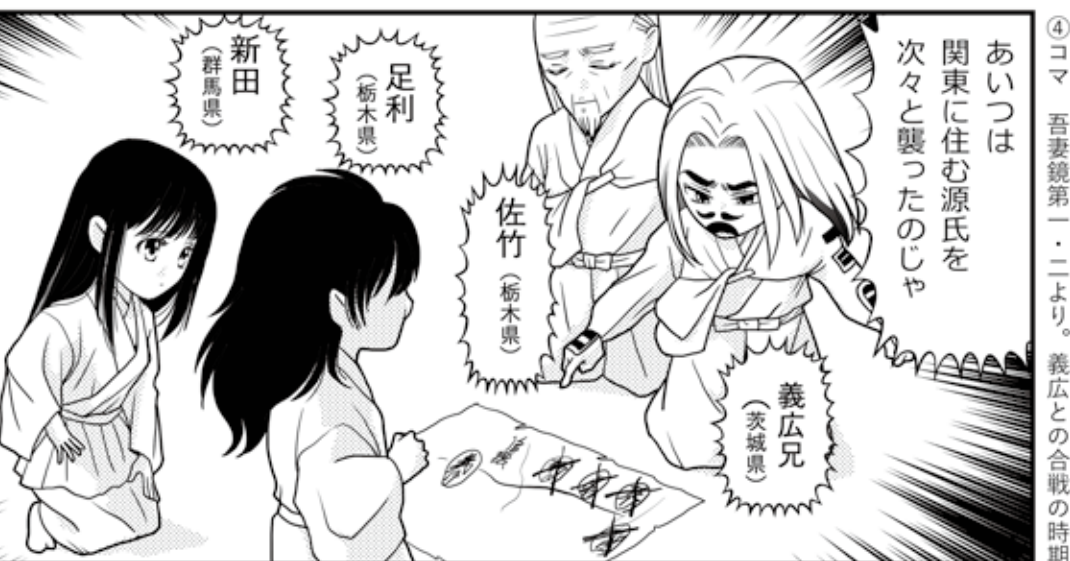
源義仲の名において
土地を保護し
戦あれば
かけつけよう

信濃の周りの
武士たちは
これほど平家に
苦しめられて
いたのか

信濃国を
守り抜いたぞ！

義仲様
どうか
助けて
ください

義仲のもとには
群馬・新潟・富山・
石川・福井の武士が
集まった



～1182年 ききんと停戦

1170年代の日本は、天皇の父や祖父が「法皇」「院」となり、家柄にこだわらず優秀な貴族たちと政治を行っていました。その中で平清盛がトップに立ち、院とも対立するほどになりました。

平清盛は義仲と同じような「軍事貴族＝将軍になれる貴族」の家柄の生まれでした。そのため平清盛を良く思わない人々は「源氏」に戦を起こし、平清盛を倒してほしいと願うようになりました。しかし義仲の父が殺されて土地や家臣をうばわれたように、全国の源氏は親せき同士で殺し合ったりばらばらでした。

後白河法皇の息子・以仁王は、1181年の春、令旨（手紙）を源行家に各地の源氏へ届けるよう命じました。「平家打倒」というかけ声のもと各地で戦が起こりました。義仲の横田河原合戦もその中の戦の一つです。

1181年、82年はききんや地震が起き、平家は都から地方へ兵を送ることができませんでした。その間に義仲は長野県・群馬県・新潟県・富山県・石川県・福井県の武士を仲間にし、守りを固めました。

それに対し源頼朝は神奈川県、東京都、千葉県、埼玉県から兵を送り、茨城県、栃木県、群馬県の源氏を攻め従わない者を殺しました。



急いで信濃・北陸の
兵を集めよ
お前なら頼朝を倒せる

うだうだするな
いくじなしめ

そなたの父は
頼朝の兄に
殺されているのだろ

③コマ 中原一族―木曾地域を支配していた都から移住した貴族。

あだうちせよ！

私が二歳の時
父は殺された

父の土地も
家臣もうばわれ
私は信濃へ
逃れた

そこで
待っていたのは
大きな愛だった

中原一家は私を
本当の兄弟のようにに
慈しんでくれた

駒王丸！
（こまおうまる）

駒王丸―義仲の幼名（子供の時の呼び名） ⑥コマ 上野―群馬県

戦う…？
何のため！

戦え！
義仲！

上野から使者が
頼朝の軍が
信濃へ進んで
いると！

今すぐ東信の
武者を集めよ

☆頼朝の信濃侵攻―平家物語「清水冠者」など。史料がなく詳細不明のため、小説や映像で省略されることが多い。 ③コマ 越後―新潟県

私が戦う理由は…
たった一つ！

東山道沿いの兵へ
伝令を！

食料を持ち
妻子領民とともに
山城で指示あるまで
待機せよ

おう！

戦う意志あるものは
私についてまいれ！

父上
私たちも
お連れ下さい

清水義高 義仲の子

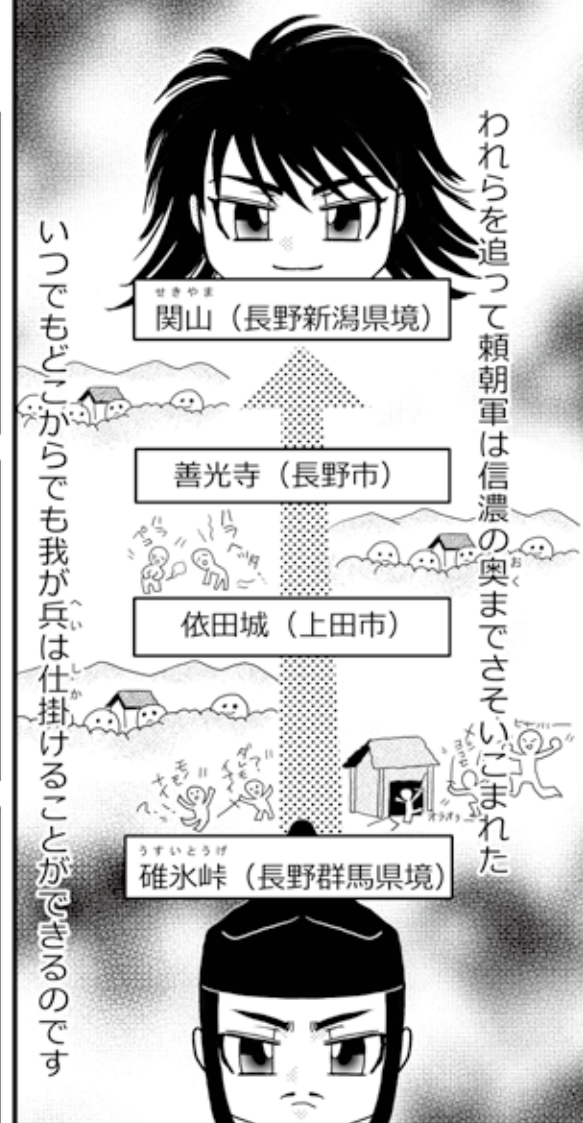
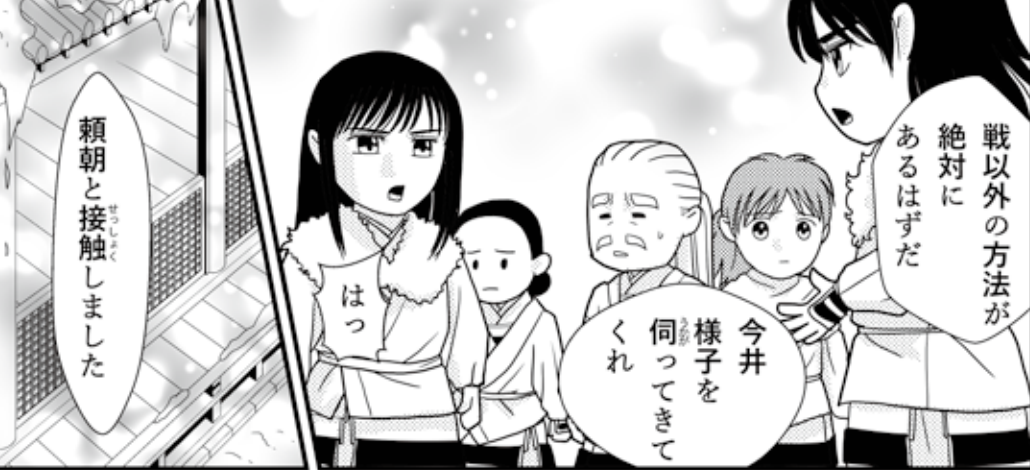
一緒に
参ろう

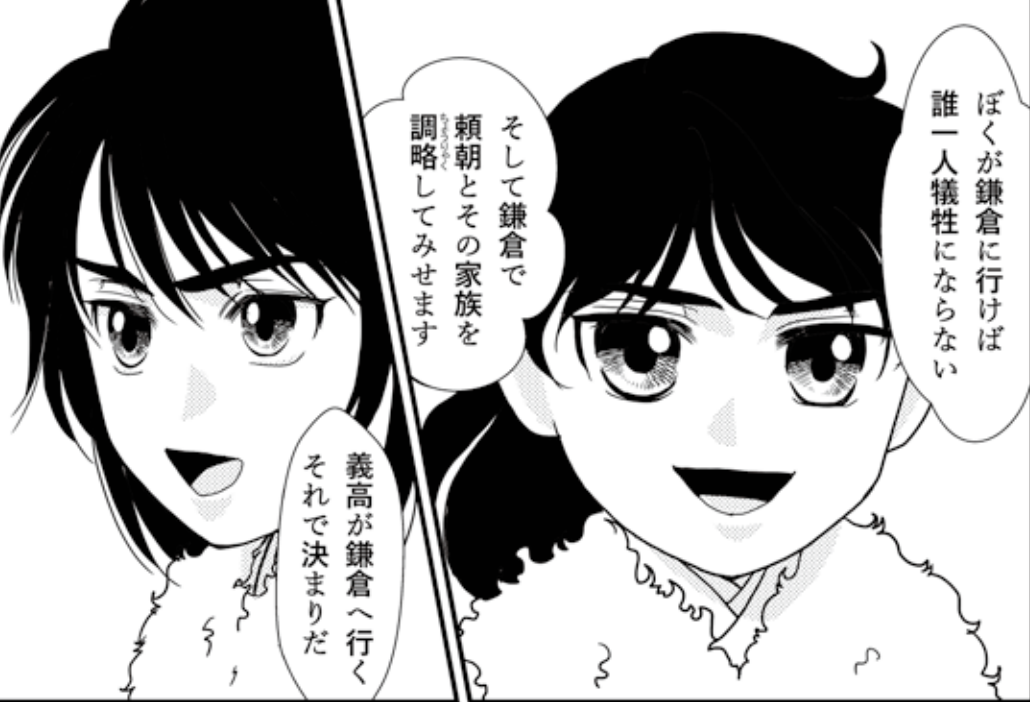
義仲の軍勢は
北へ向かった

善光寺を過ぎ
越後の国境まで

義仲よ
まだ
戦わぬのか

戦は
とつくに
はじまって
おります

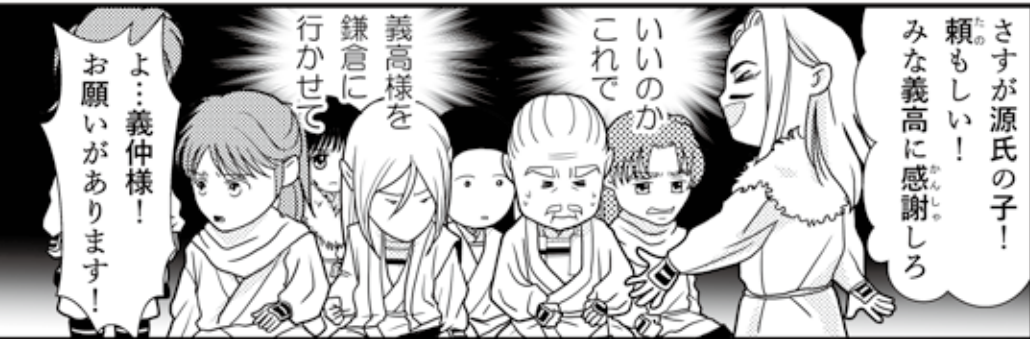




①コマ 調略→武士の戦術の一つ。敵対する相手の気持ちに入り込み味方につけること。戦国時代真田氏が得意とした。

そして鎌倉で
頼朝とその家族を
調略してみせます

義高が鎌倉へ行く
それで決まりだ



さすが源氏の子！
頼もしい！
みな義高に感謝しろ

義高様を
鎌倉に
行かせて

よ…義仲様！
お願いがあります！



ぼ…ぼくも
行かせて
ください！

うんのゆきひろ
海野幸広 東御市の武士

うんのゆきうじ
海野幸氏 幸広の息子



どうせいずれ
頼朝とは戦うことに
なるだろう

それなら
今やるべきだ

私は義高様の教育係
あえて鎌倉行きを
提案します

こもろみつかね
小室光兼
小諸市の武士

いまいかねひら
今井兼平 義仲の一番の家臣



おのれの命が惜しくて
主君の子を
犠牲にしようとは
恥を知れ！

根井大老
いかがですか



義高様は
年少ながら
知略は
歴戦の
武將に
劣りません

ねのいおおやたゆきちか
根井大弥太行親
佐久市の武士 滋野党のボス



どうだ義高

恨まれて
大叔父様が
行けば
殺される

戦に
なれば
たくさん人が
命を落とし
さらに大きな
恨みが
生まれる

1183年 夏 北陸の戦い!

☆北陸の戦いについては、平家物語「寛一本」「延慶本」「長門本」、源平盛衰記を合わせて読むと詳しく知ることができる。

みやぎながやま
宮崎長康

富山県の武士。北陸武士団のリーダー

この城は
もうだめだ
撤退するぞ

1183年春
ついに平家が
北陸に攻めてきた

軍勢は食料を奪い
人々を傷つけ
次々と城を落とし
進んだ

気にせず早く
行くのじゃ!

北陸の諸君
助けに来たぞ!

ここは
ワシらが
防ぐ!
早く
越中へ
向かえ

じい様!

たくさんの人の
命を救った
私たちだけでなく
頼朝の軍勢の武士も

二人の
勇気が...

大人が
誰も何も
言えず
幸氏は俺たちの
身代わりになった
ようなものだ

いってきます!

ちがうだろ
代表だよ

信濃武士の
代表として
幸氏は鎌倉へ
行くんだ

幸氏が
義高様と
戦うように

俺たちは
義仲様と
戦うんだ



皆様の力を借りれば
平家を追い落とす
策はございます

しかし
馬にまたがり
目と頭を
働かせる気力は
ありません

私たちは
仲間を失い
戦で傷つき
弓を引く力も
ありません



わかった
話を聞こう

ところで…
後ろの山に
社が見える
あれは…?

この地域を守る
八幡神社です

戦の前に
縁起がよい
お祈りするぞ



平清盛が政治を思うままにし
世の中が乱れました

私は源氏の血をうけつぐものとして
みすごすことはできず
小さな力ですが兵をあげました

それは

赤子が貝で海の広さを
測ろうとするほど小さく
カマキリが

小さなカマをふり上げて
牛車に立ち向かおうと
するような

笑いものになるほど
愚かなことかもしれせん

しかし私は戦います

自分のためではなく
人々のため 秩序のために

たゆうぼうかくみょう
大夫坊覚明
義仲の祐筆



はなて!



もつとはやく
かけつけ
たかったが

頼朝軍が
攻めてきて
しまつて

皆さんの
仲間も
犠牲に…

いや…戦には
ならなかった

えっ?
攻めてきた…と



戦を避けるために
義仲様は
跡継ぎの義高様を
頼朝に
さしだしたのだ

私たち兵の命を
ムダに
させないと…

本当に!?

武将にとって
兵など
使い捨てでは
ないのか!?



宮崎殿!
石黒殿!
林殿!

よくぞ生きて
いてくれた…!

北陸を
平家から
取り戻すぞ!

義仲様
われらの
名前を…

倶利伽羅合戦

牛車に
立ち向かう
カマキリは
俺たちだ

義仲様は
大切に
してくれる

都にとつては
虫けら
そんな俺たちを

自分や
家族を
犠牲に
しても

俺たちの
意見を
きき

戦を避け
俺たちの
土地と命を
守ってくれる

こんな大将
他に
いるか？

☆寿永二年五月11日富山県小矢部市と石川県津幡町の県境で起きた。玉葉・寿永二年五月十六日条

☆戦の展開は「源平盛衰記」が最も詳しい。

いつか
戦で死ぬのなら

義仲様の
兵がいい

勝った！

…だが…

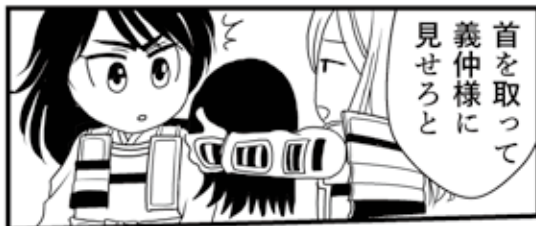
くらやみ
暗闇の中で
襲いかかられ
平家の兵は
谷底に落ちた



見つけたら
殺せ！

駒王丸を
(義仲の幼名)
探せ！

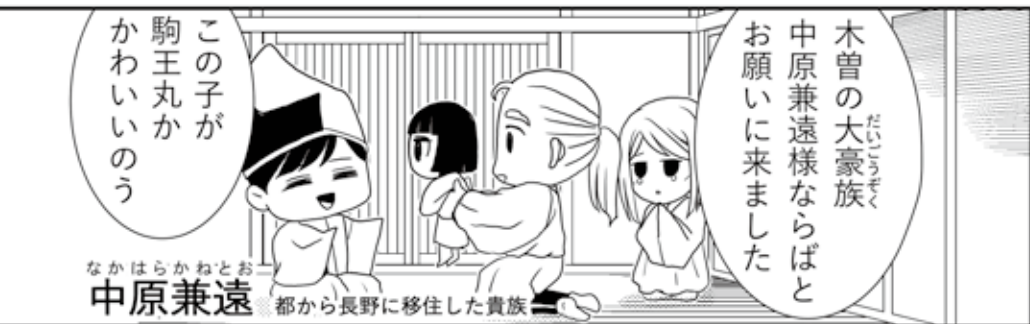
さいとうさねもり
斎藤実盛
埼玉県の武士



首を取って
義仲様に
見せろと



どう
なされました？



この子が
駒王丸か
かわいいのう

木曾の大豪族
中原兼遠様ならばと
お願いに來ました

なかはらかねとお
中原兼遠 都から長野に移住した貴族



実盛殿がいなかったら
私は木曾で育たず
木曾義仲はいなかった

私は
義仲様の大事な人を…



戦に犠牲は
つきものだ

平家は倶利伽羅での
敗北を知ると
都へ敗走を始めた

しかし
武士の誇りのため
戦をやめない者も
いた

☆篠原合戦。寿永二年（1183）6月1日石川県加賀市で起きた。源平盛衰記が詳しい。



ハデなよろい
大将か？

私の首を取って
義仲に見せよ

見た目は
若武者：
声は老人？

てづかみつもり
手塚光盛
上田市手塚の武士



義仲様
あやしい武士を
うち取りました

よろいは大将
しかし供はなく

見た目は若武者
声は老人

ありがとう手塚
そなたは実盛殿の
恩人だ

えっ？

実盛殿の夢を
かなえてくれた

じじいだと
情けをかけられるのは
イヤだからな
最期まで
武士としてカッコよく
死にたいのじゃ！

実盛殿は
強かったか？

私も全力で
戦いました

私はな
じじいになって
最期の戦と
決めたら
しらが黒く染め
若武者のふりを
するつもりじゃ！

私は見ないふりを
していた

平家に参じた兵にも
実盛殿のように
思いがあつたに
ちがいない

覚明

はっ

☆斎藤実盛の最期は能の演目になり、江戸時代に浄瑠璃・歌舞伎にも取り入れられた。現在でも数年前に上演されている。

☆延暦寺は僧兵と呼ばれる強い武士団を持っていた。一方で僧たちの投票で物事が決まるしくみだった。

⑤コマ 棟梁＝リーダー

延暦寺に
書状を

覚明の筆力で
必ず味方に
するのだ

延暦寺が持つ兵は
あまりに多い

平家以上に
強敵かも
しれぬ

越前(福井県)に源氏
近江(滋賀県)に僧兵
都にいる平家が
入り交じる戦となれば
都は火の海です

それは
避けたい

ワシは
他の源氏を
率いて先に
都に入らせて
もらう

叔父上！

口だけだ
放っておけ

交渉は一か月かかった
延暦寺は平家を見限り
義仲に味方することを決めた

義仲よなにを
ぐずぐずしている

平家を追い込む
絶好の機会では
ないか

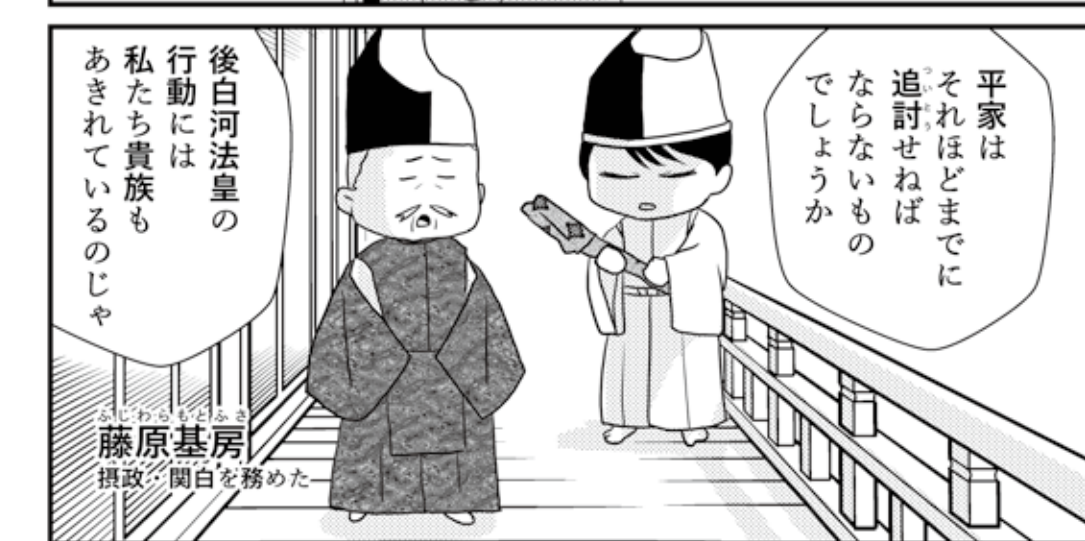
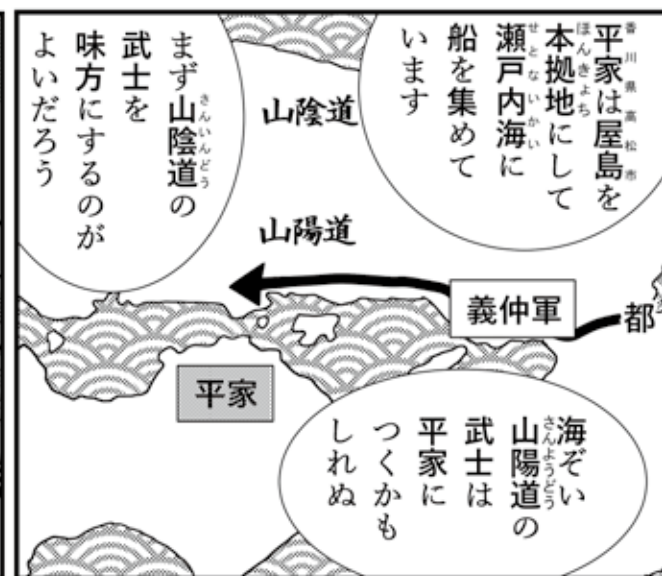
武士の棟梁である源氏が
戦わないとはありえない

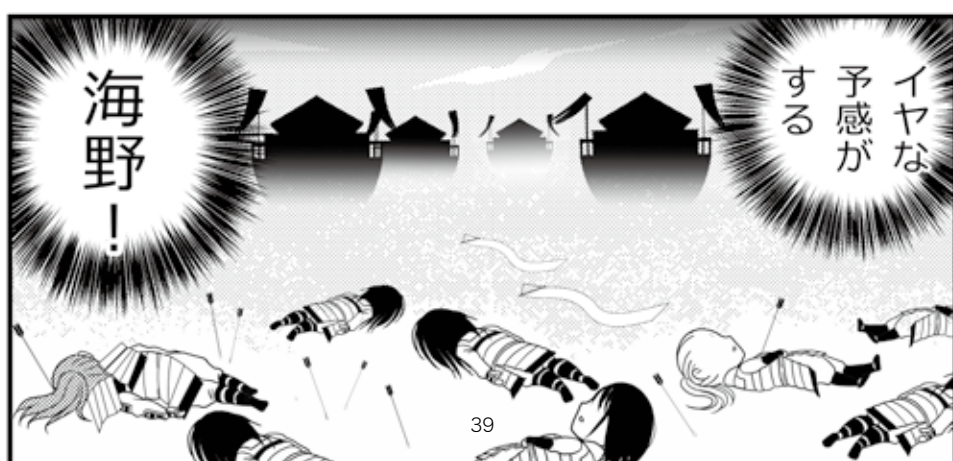
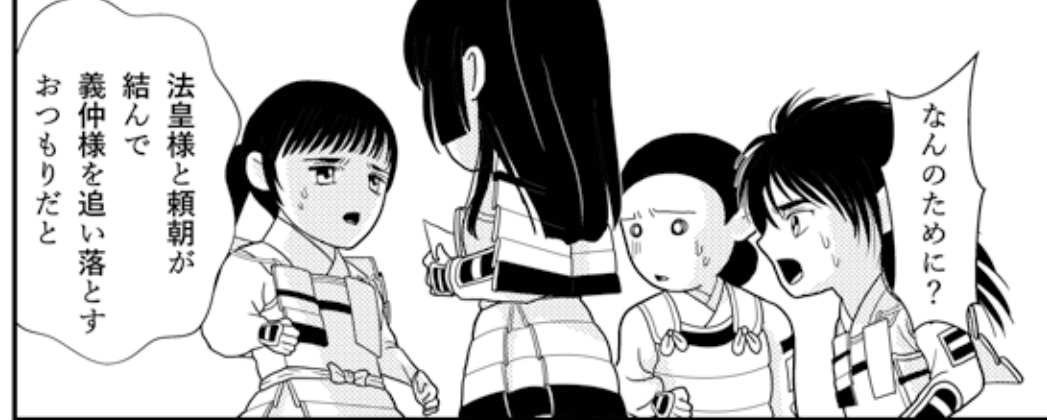
1183年 7月 とまどう義仲



②コマ玉葉 寿永二年七月二十八日条 この日以降、都での義仲の様子が九条兼実によってリアルタイムで書き留められている。







☆水鳥合戦 閏十月一日(1183年11月17日) 義仲軍と平家が岡山県で合戦した日、日食が起きたことが天文学上で証明されている。



清盛様
亡き今
我らに天下を
ほしいままにする
欲はない

ただ
懐かしい都に
戻りたい

どうか義仲殿が
とりもっては
くれぬか

どうする

もしそれが
ならぬ時は

どうすれば
仲間を守り

都を混乱から救える

われわれは
全力をもって
義仲殿に
挑む

一番良い
方法を
決断するんだ

話を聞こう



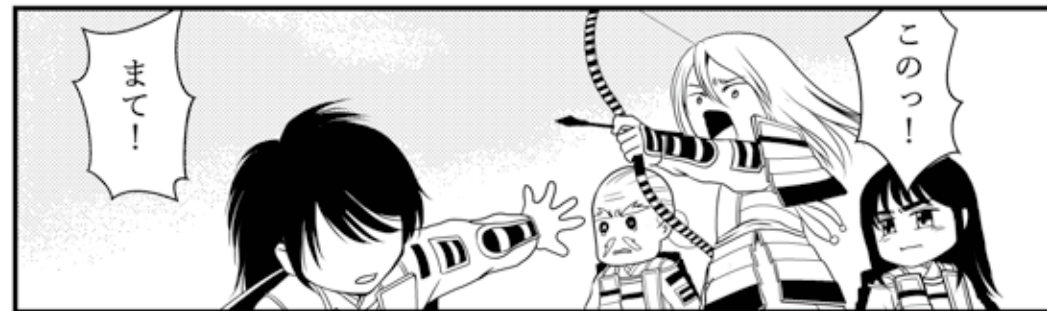
義仲様！
あれを！

もっと早く
駆けつけていたなら



海野！

俺がもっと早く
決断していたなら



このっ！

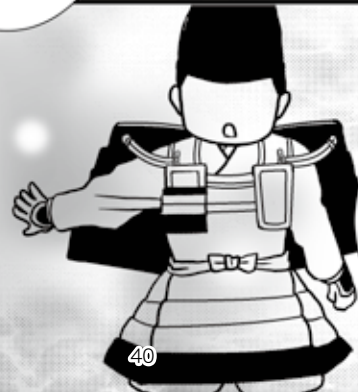
まで！



源義仲殿
平宗盛様の
お言葉を
あずかって
まいった

我ら平家は
これ以上の戦を
望んではおらぬ

互いに
院の手のひらに
のせられ



義のない戦で
仲間の命を
失うのは
理不尽
ではないか

1183年 11月 大將軍義仲!

義仲が平家に
敗れた今なら
義仲を倒せる!

法住寺合戦

義仲が
平家を討たずに
都へ戻ると

後白河法皇が
兵を集め
義仲を
攻めようとした

しかし
あっという間に
負けた

☆法住寺合戦 寿永二年11月19日 義仲を討つため後白河法皇が兵を集め起きた戦。
「玉葉」にくわしく書かれている。

都を守るべき者が
戦を起こすとは
ゆるせん

法皇御自ら
戦を起こすなんて

それを止めた
義仲は
天の使いじゃ

義仲は
元関白の
藤原基房と
協力し

平家の帰京は
正月明けと
決まった

平家に
この鏡を送れ
和平の証だ

平家帰京の
筋道を
整えた

大変です!

平家が
帰京を
取りやめると

なぜだ?

源氏に
攻撃された
と

頼朝の軍か?

いや

まだ近くには
来ていないはず

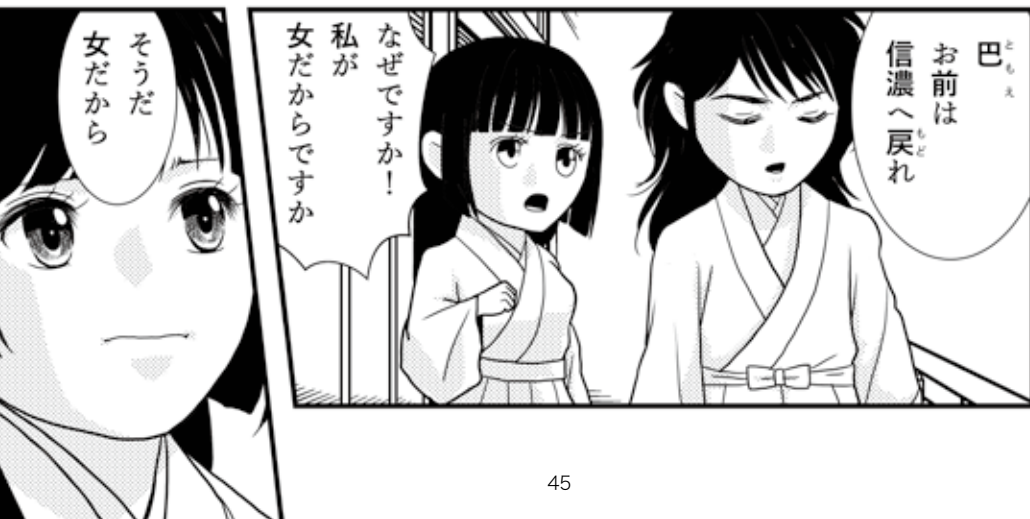
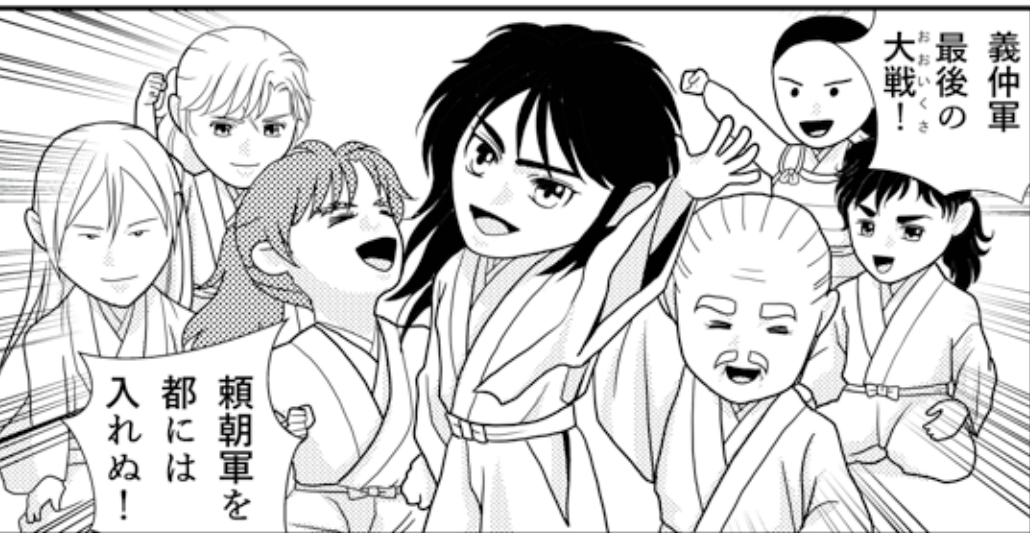
そして
寿永三年(一一八四年) 正月
義仲は源氏で初めての
大將軍に任じられた

まずは私が
大將軍となり
世の中の秩序を
取り戻す

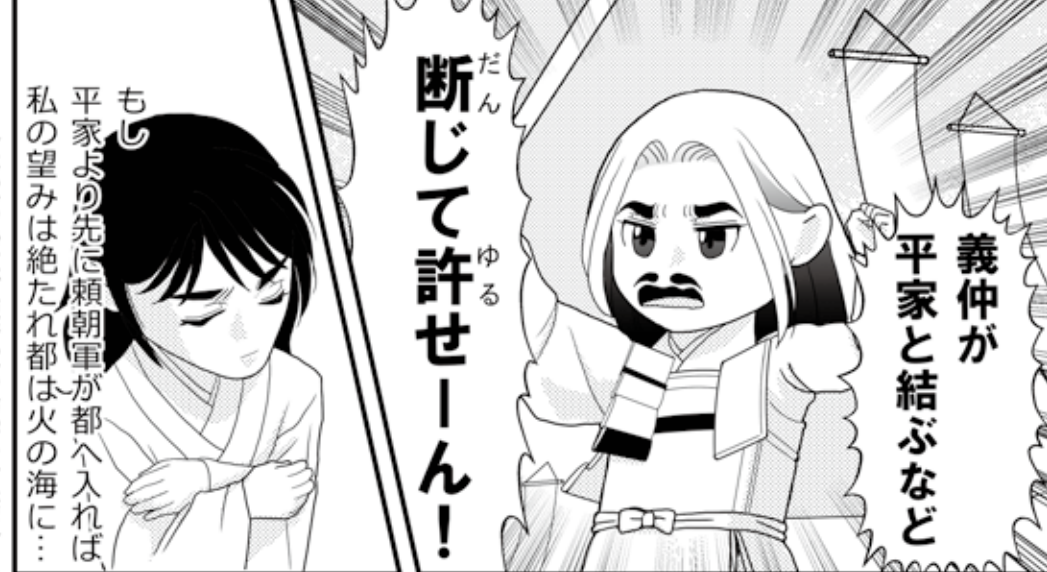
平家とともに
頼朝を
交渉の場に
ひきずりだす
頼朝より
8年も先に

大將軍!

ついに
義仲様が



① コマ 源平盛衰記 根井の言葉より。根井は大弥太・小弥太親子で参加しており、ここでは息子のセリフとした



☆平家の帰京、源行家の妨害など緊迫した様子は「玉葉」に書かれている。

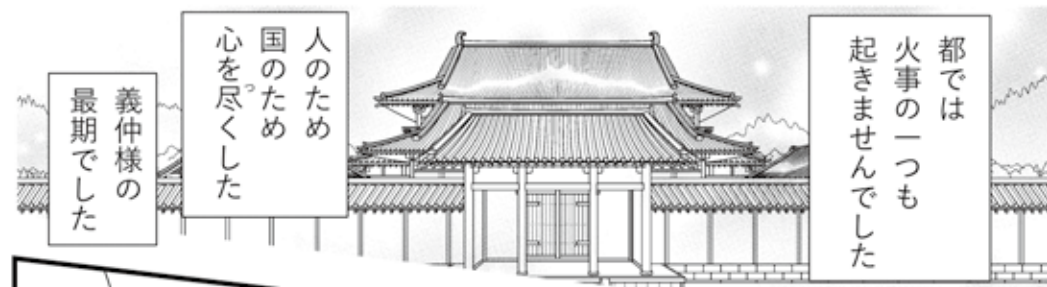
③ コマ 勢田・滋賀県大津市



女であるお前だけが
あやしまれず
信濃へ戻れる

信濃に残った人々を
みんなの家族を頼む
……巴

都を戦場にしないため
義仲は琵琶湖のほとりで
戦い亡くなりました



都では
火事の一つも
起きませんでした

人のため
国のため
心を尽くした

義仲様の
最期でした



義仲様や父上の戦…
くわしいお話を
聞けて良かったです

再会できて
うれしいよ
幸氏

義高様の話
聞かせてくれるか？

一一九〇年
安良居神社



義高様は宣言通り
鎌倉で御家人たちを
調略しました

頼朝様の姫君や
母・政子様
北条家の皆さん
だけでなく

たった一人
頼朝様だけは
険しい表情を
崩すことはなかった

「冠者様」
「冠者様」と
多くの人の
親しみ
うやまう声が
絶えなかった



義仲様
亡きあと

頼朝様に
義高様は
殺されました

私は
身代わりになって
鎌倉に残ったはずが
生き残り
義高様の仇・頼朝の
御家人として
生き恥を
さらしています



生き恥…
俺も同じだ
みんな
討死した
なのに
生き残って

でも巴様が
言って
くれたんだ

生き残った人が
語り続けられ

義仲様も
みんなも



記憶きおくの中で

生き続けることが
できる

だから生きて語らなければ

② コマ 残党狩りー敵の生き残った兵をとらえ殺すこと。吾妻鏡に信濃進軍の記述がある。

侍所別当ー御家人を束ねる役所の長官

残党狩りざんとうがで
我々をかばって
鎌倉に
連れていかれて…

巴様は今
侍所別当・和田義盛様の
家にいらっしゃいます

信濃武士のために
かげながら
力ぞえ下さっています！



そうか！
よかった…

いつかまた
義仲様の思い出を
語り合いたいな



漫画でわかる
木曾義仲と上田市の武士
第二弾

まんが・文 西川かおり

2025年3月発行

信州丸子義仲祭り実行委員会
(事務局)

長野県上田市上丸子1612番地
丸子地域自治センター地域振興課内
